

学校経営方針

教育課程について

内容構成

第1表 教育目標 教育目標達成のための基本方針

第2表 指導の重点

(1) 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

(2) 特色ある教育活動

第3表 学年別授業日数及び授業時数の配当

第4表 学校行事等

第1表 教育目標 教育目標達成のための基本方針

学校の教育目標

人権尊重の精神を基盤として、児童一人一人のよさや可能性を生かし、他者と協働しながら豊かな人生を切り拓く資質・能力を育てるために以下の目標を掲げ、「知」「徳」「体」の調和のとれた教育を目指す。（◎は重点教育目標）

◎あたたかく…人間関係形成力の育成

一人一人がその子らしくいられる教育環境

○かしこく…基礎的・基本的な学力の定着

個別最適で協働的な学び

○つよく……体力・創造力・粘り強さの育成

創造力に富み、健康で安心・安全な教育環境

第1表 教育目標 教育目標達成のための基本方針

教育目標達成のための基本方針

ア 教育目標「あたたかく」を実現するための具体的な取組

- 人権教育の推進（重点とする個別的な視点 子供・しょうがい者・インターネットによる人権侵害）
- フルインクルーシブ教育の推進（包摂力を高める教育活動の推進）
- 学校生活満足度調査を活用した学級経営と生活指導
- 道徳教育の充実（低学年の重点項目・・友情、信頼 中・高学年の重点項目・・相互理解、寛容）
- 特別活動の充実（人間関係形成・社会参画・自己実現）
- 生活指導の充実（いじめ防止、二小スタンダード、ふわふわ言葉、あいさつ、情報モラルの確立）
- 特別支援教育の推進（交流及び共同学習、しょうがい理解教育の充実）
- 不登校児童へのきめ細かな対応（相談機能の充実・不登校対策としての1人1台端末の活用）
- 新しい校舎で実施する「つなぐ教育」
- 児童自らが考えるルールづくり

児童自らが考えるルールづくり

令和7年4月1日 国立市子ども基本条例施行

子どもの権利

安心して生きる権利

自分らしく心豊かに育つ権利

意見を表明する権利

意見が尊重される権利及び参加する権利

子どもにかかわることはできるだけ子どもに考えさせる

→児童自らが考えるルールづくり

例1 街角ピアノ（仮）の名前→「きらきらピアノ」

第1表 教育目標 教育目標達成のための基本方針

教育目標達成のための基本方針

イ 教育目標「かしこく」を実現するために

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進（指導の個別化 学習の個性化 協働的な学び）
- ICTの活用（1人1台端末の活用・デジタル教科書や指導書の活用・各種AI学習ソフトの活用）
- 1人1台端末活用した家庭学習の充実
- 学習方法としての思考ツールの活用
- 給食準備時間での補習の継続
- 総合的な学習の時間の充実（SDGs・人権・情報・環境・福祉・伝統・防災。キャリア教育 他）
- 教科担任制を一部の学年で実施し、教師の専門性を活かした指導の充実を図る。

総合的な学習の時間の充実

総合的な学習（探究）の時間は、変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標にしていることから、これからの時代においてますます重要な役割を果たすものである

（文部科学省HP ）

二小の課題 探求的な学びの充実と「二松ソーラン」「宿泊学習」等の体験を通して課題解決していく学びの両立

探求的な課題を具体化して、学習計画を確立していく

S D G s ・人権・情報・環境・福祉・伝統・防災教育

キャリア教育 他

教科担任制を一部の学年で実施し、教師の専門性を活かした指導の充実を図る

一人ひとりの個性や能力にあった個別最適な学びの実現

専門性の高い教科指導

中学校教育への円滑な接続（いわゆる「中1ギャップ」の解消）

児童理解の推進

教員の得意分野を活かした授業を学年で共有する

専科の教員を増やし（理科）専門性を高める

1人担任だけで全て子どもを見るのではなく、多くの教員がかかわる副担任を各学年1名位置づける

第1表 教育目標 教育目標達成のための基本方針

教育目標達成のための基本方針

ウ 教育目標「つよく」を実現するために

- 体育授業の充実（校庭の整備 体育用具・施設の充実）
- アレルギー対応（対応食）の徹底
- 感染症予防の徹底
- 創造的な活動の充実（学芸的行事[学芸会]、クラブ活動等）
- 粘り強く取り組む子供の育成（特別活動での取組[学級活動、児童会活動、行事]を通して）
- コミュニティ・スクールと連携した豊かな教育活動の創造

第2表 指導の重点 各教科

- 1人1台端末の活用
- 思考ツール（考え方モデル）の活用
- 体育施設、用具の充実
- モジュールの時間（火曜日～金曜日 15分間の朝学習で知識の定着を図る）
- どの子も学びやすい教室環境と包摂性を高める教育

第2表 指導の重点 道徳

- 道徳教育推進教師を中心に道徳の授業を
組織的・計画的に行う
- 重点項目
低学年「友情・信頼」中・高学年「相互理解・寛容」
- 人権教育の重点
「子供」「しょうがい者」「インターネットによる人権侵害」
- 道徳授業地区公開講座の充実

第2表 特色ある教育活動

- ア 交流及び共同学習の推進や個に応じた多様な学びの保証等、児童一人一人がその子らしくいられる環境づくりのために、包括力を高めた取組を進展する。
- イ 特別支援学校との副籍交流の推進
合理的な配慮に基づく教育を推進
- ウ 特別支援教育担当教員による通常の学級児童向けの理解教育授業
特性に応じた学習、通常の学級での支援の充実を目指した研修
- エ 地域や保護者と連携し、音楽に親しみ楽しむための金管バンド

第2表 特色ある教育活動

- オ 夏季特別講座「二松クラブ」のC S連携して実施
- カ 学校と児童・保護者・地域の四者が一体となった安全体制
- キ コミュニティ・スクール導入による地域とともにある学校
桜の苗木づくり 芝生の育成 二松クラブ
- ク 新しい校舎の施設を活用した教育活動を促進
スロープを活用した集会活動
中庭で行う音楽授業
学校図書館の畳スペースを活かした読書活動等

第3表 学年別授業日数及び授業時数の配当

二小は各学年の教科等における時数を学習指導要領に示された「標準時数」で年間指導計画を作っています。

学校によっては、各教科等で3～5時間の時数を増やして指導計画を立てている学校もあります。これは、時数を増やすことで、学力の保障・向上を目指す方策です。二小の学力の現状では増やさなければ学力が保てない現状ではありません。

一方、授業時数が多くなることで、行事にかける時間や教員が教材準備・教材研究を勤務時間内で行う時間が減ります。その影響で、教員が子どもと関わる時間も減ります。

そのため、「標準時数」で授業時数を計画し、その時数を確保できる授業日数を立てています。

令和7年度 経営方針

新しい、取組

チャレンジ精神の評価

考えて実行する組織

令和 7 年度の新たな取組

- **デジタルを活用したこれからの学び推進地区 地区担当校**

令和 7 年～ 8 年度の 2 年間

各教科の中でデジタル（1 人 1 台端末）を活用した授業実践を行う。

ただし、授業プランは都教委が示すものを使う。

- **小学校教科担任制推進校**

5. 6 年生で教科担任制を実施

4 年生以下の学年で教科担任制をできるだけ実施

全学年に副担任を設置する

令和 7 年度の新たな取組

・コミュニティースクール（CS）開始

学校運営協議会を設置して、地域運営学校を開始する

地域学校協同活動コーディネーター（秋谷さん）と連携

地域連携担当（松沢先生）を設置して、地域連携を推進する

CS の会議は年間 6 回を予定

管理職とそのときに協議内容を担当する先生方が参

CS の協議内容は教育課程の承認、CS 公募の内容確認のほか

二松クラブ、総合防災訓練、金管バンド、に一だんご等を予定

保護者ボランティアなどはコーディネーターの秋谷さんを通して
募集をかける

令和7年度の新たな取組

- 校務改善について

- ★ クラウド化の一層の推進

- ・ 現在、職員会議等での校務分掌上の提案事項は
Google Workspace を使ったクラウドでの対応を進めています
が、より一層の推進を図っていきます。

例 アンケートや反省等は**Form**を使う

日程等はスプレッドシートで同時に共同編集

その他のアプリも積極的に活用していきましょう

！ 行事等の提案をするときには、その中に必ず反省のFormやスプレッドシート等を入れて起案・提案してください。やっているときが一番、気が付くときです。終わってしまうとまあいいか、と思って反省に載らず、経験が共有できません。

考えて実行する組織のために

- 気付いたことはすぐに提案

→「週の振り返り」の提案 全員が提案することを目指します。

提案されたことは、毎週の主幹会で確認し、すぐに検討結果を示します。

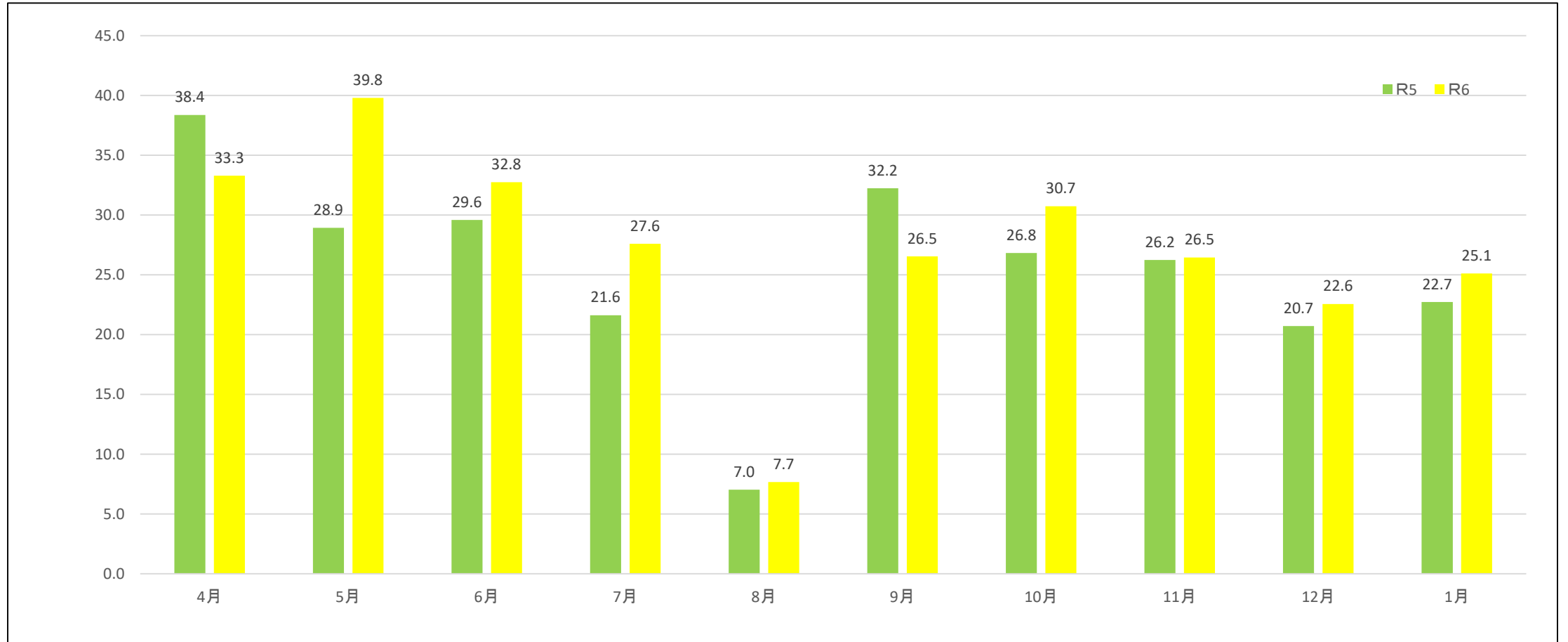
→各行事等の実施計画には反省用のスプレッドシートを添付して、実施しながら気付いたことを反省用シートに記入

- 会議等では積極的な発言を

→学年会・分掌会議等人数が少ない会議を設定

→職員会議では、近くの人と話し合い、無記名での意見の書き込み、アンケート等を多くして、意見が出しやすい環境をつくりま

働き方改革の一層の推進



働き方改革の一層の推進

- クラウドを活用した校務改善
- 教科担任制を活かした業務軽減 1 回の教材研究で 3 回分の授業など
- 講師の時数
- 電話対応時間の制限
- 夕会の時間設定（ずれ勤をとりやすく）
- 通知表の工夫
- 情報の共有化
- C S の活用
- 地域行事の精選
- 学校行事の工夫
- 会議の精選

全教職員のアイデアと工夫と
チームワークと話し合いで
よりよい国立第二小学校を
創りましょう！